

用語解説

APC (論文出版料、Article Processing Charge)

著者支払型のモデルにおいて、論文をOAにするための出版費用。実際にその経費を「著者本人が負担」するのかについては、国や所属機関によって異なる。学会誌では、学会員と非会員とでAPCの金額に差を設けたり、出版社によっては、機関のパッケージ契約額に応じてAPCの割引サービスを行ったりするところもある。論文出版加工料、論文掲載料、論文処理費用、Publication feesなどとも呼ばれる。

IF (インパクトファクター、Impact factor)

特定のジャーナル(学術雑誌)に掲載された論文が特定の年または期間内にどれくらい頻繁に引用されたかを平均値で示す尺度。クラリベイト・アナリティクスの引用文献データベースWeb of Scienceに掲載された雑誌を対象とする、Journal Citation Reports(JCR)による評価ツール。計算方法は、特定の雑誌の対象年における被引用回数を、対象年に先立つ2年間にその雑誌が掲載した論文数の総数で割ることによって算出する。同じ分野内での雑誌の影響度を測る際に参考となる指標である。

JAIRO Cloud (ジャイロ・クラウド、機関リポジトリクラウドサービス)

オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)と、国立情報学研究所(NII)との共同運営による、クラウド型の機関リポジトリ環境提供サービス(JPCOAR会員向けサービス)。コミュニティサイトやユーザ窓口等の運用はJPCOAR、開発はNIIが担っている。

J-STAGE (科学技術情報発信・流通総合システム)

科学技術振興機構(JST)による、国内学会誌等の電子ジャーナル出版(論文投稿から、査読、公開までの出版プロセス全体)のプラットフォーム。国内の学協会および研究機関を支援し、2,000誌以上のジャーナルや会議録などの学術的な出版物を低コストかつ迅速に公開することを目的としている。

JUSTICE (ジャスティス、大学図書館コンソーシアム連合)

国公立大学図書館協力委員会と国立情報学研究所(NII)との協力体制によって、「バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備」を推進することを主要な目的として、2011年に発足した。会員館から参画する運営委員会、作業部会(交渉、調査、広報)と大学図書館から出向する事務局(3名)とで運営されている。

OA (オープンアクセス、Open Access)

学術論文等をインターネット上に無料公開することで、誰もが障壁なくアクセスできるようにする仕組のこと。2002年のブダペスト・オープンアクセス・イニシャティブで「(査読された)雑誌論文をインターネット上において無料で利用することができ、全ての利用者に、閲覧、ダウンロード、コピー、配布、印刷、検索、全文へのリンク、索引化のためのクロール、ソフトウェアへの取り込み、その他合法的な目的での利用を(中略)財政的、法的、技術的な障壁なしに許可すること」と定義された。主な実現方法に、グリーン・ロー

ド（グリーンOA）とゴールド・ロード（ゴールドOA）の二つがある。ほかに、購読型のジャーナルに掲載された論文に対してAPCを支払うことでオープンにするハイブリッドOA、OAライセンスは明確ではないが様々な理由で無料公開されているブロンズOAなどがある。

OA2020

「学術雑誌の購読料をAPCに振り替えれば、追加費用なく、すべての論文をOAで出版することができる」という考えに基づく国際的な活動。2020年の実現を目指し、2015年に提案された。独マックスプランク研究所が中心となって推進している。

OAアーカイブ

グリーン・ロードによるOAを実現する方策で、研究助成機関がOA義務化の受皿として運営するPubMed Central（現PMC）や、世界の研究機関が運営資金を拠出して運営する物理・数学系のプレプリントサーバーarXiv.org等が代表格である。

OA移行契約（Transformative agreements）

購読モデルからOA出版モデルへの移行を目指して、大学等と出版社の間で結ばれる契約。Read and Publish契約（RAP：購読料とAPCをまとめた契約）やPublish and Read契約（PAR：APCのみで購読もできる契約。ただし通常のAPCより割高な場合が多い）などがある。移行契約、転換契約とも呼ばれる。

OAジャーナル（OA Journal）

読者が購読料を払う購読型ジャーナルに対して、論文の著者がAPC（論文出版料）を払って読者には無料で提供される学術誌。他に、学会や大学等の学術機関などが出版経費を負担しているケースもある。

OAポリシー

出版社、学協会、研究助成機関、大学等の研究機関が、それぞれの立場で定めたOAに関する方針。出版社・学協会は出版物を著者がOA化することの可否や方法について、研究助成機関は助成金による研究成果を著者がOA化することの義務や推奨について、大学等は構成員が論文等をOA化することの義務や推奨について定めている。学協会や大学等は明確な方針を定めていないことも多い。

オープンサイエンス

「第5期科学技術基本計画」によると、オープンサイエンスとは、OAと研究データのオープン化（オープンデータ）を含む概念である。OAが進むことにより、学界、産業界、市民等あらゆるユーザが研究成果を広く利用可能となり、その結果、研究者の所属機関、専門分野、国境を越えた新たな協働による知の創出を加速し、新たな価値を生み出していくことが可能となることが期待されている。

オープンデータ

オープンサイエンスに含まれる概念で、研究データのオープン化を指す。オープンデータが進むことで、社会に対する研究プロセスの透明化や研究成果の幅広い活用が図られ、市民の参画や国際交流を促す効果が見込まれる。市民が研究プロジェクトに参画するシチズンサイエンスや、オープンイノベーションの重要な基盤としても注目されている。大学や国立の研究所等では、研究倫理の観点でも研究データの保管・公表が求められている。

機関リポジトリ（Institutional Repository、IR）

大学等の研究機関による所属研究者向けのサービスで、教育・研究成果としての知的生産物を電

子的形態で収集・保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム。グリーン・ロードによるOAの主要な手段であり、日本における設置数は、2019年3月現在、786に上る。

グリーン・ロード (Green Road)

OAの主要な手段の一つ。グリーンOAとも呼ぶ。論文の著者が、無料でアクセスできるサイトに論文を置く(セルフ・アーカイブする)ことによって、OAを実現する。著者が所属する大学等の機関が運用するサーバ(機関リポジトリ)、査読前の論文(プレプリント)をインターネット上で公開するための仕組みであるプレプリントサーバ(arXiv.org等)、研究助成機関がOA義務化の受け皿として運用するサーバ「PubMed Central(現PMC)」などがある。

ゴールド・ロード (Gold Road)

OAの主要な手段の一つ。ゴールドOAとも呼ぶ。OAジャーナルの発行により実現する。学術雑誌自体を誰もが無料で読めるようにしてOAを実現しようという方式である。OAジャーナルの出版費は、これまでの購読料(サブスクリプション料金)に代わって著者が支払うAPCによって賄うモデルである。この著者支払型のモデルにも、ある雑誌に掲載された全ての論文をOAにするモデルと、著者がOAにするかどうかを選択し、APCを追加で支払うハイブリッドモデルの2種類がある。大手の商業出版社も著者支払型のOAジャーナルの出版を積極的に進めており、大半の出版社がハイブリッドモデルを採用している。

シリアルズ・クライシス(雑誌危機)

1980年代の北米で、学術雑誌は代替ができず市場での価格競争にさらされないという特殊性と、大手商業出版社による寡占などの要因によって学術雑誌の価格が高騰した。図書館での購読タ

イトル数は減少し、購読者の減少が更なる価格上昇を招くという悪循環に陥った。日本では1990年代に影響を受け、1989年頃には日本全体で4万タイトル弱を購入していたが、1997年には2万タイトル強まで減少した。この状況を「日本版シリアルズ・クライシス」と呼ぶ。

ハイブリッドジャーナル(ハイブリッド誌、Hybrid Journal)

掲載される個々の論文毎にAPCを負担してOAにするかどうかを著者が選択する方式の雑誌。APCを支払った論文のみがOAとなるため、一つの雑誌にOA論文と有料論文とが混在する。購読料とAPCによる出版社収入のダブルディッピング(二重取り)が発生することが問題視されている。

ハゲタカジャーナル(粗悪学術雑誌、Predatory Journal)

明確かつ厳密な査読プロセスを持たない学術誌の俗称で、著者がAPCを支払うだけで論文を掲載する。OAジャーナルに対する需要に乗じて増加した。

バックファイル (Back file)

電子ジャーナル契約前に刊行された電子的なコンテンツのこと。生産された時点で電子化されている場合と紙媒体で生産されたものを電子化した場合がある。購読契約中に利用できる範囲や購読をキャンセルした時点で契約期間のバックファイルを利用できるかどうかは、契約条件による。

パッケージ (Package)、パッケージ契約

広義には、出版社(または複数出版社の電子ジャーナルを提供するアグリゲータ)が設定する契約形式で、複数のタイトルをセット化したもの

を指す。必ずしもビッグディールのみを指すものではないが、狭義には同義に使用されることが多い。基本的には、パッケージ単位で購読料が設定される。コレクション (Collection) と呼ぶ場合もある。

ビッグディール (Big Deal)

狭義のパッケージ契約とも呼ばれ、その出版社が刊行しているタイトルの全てもしくは大部分を利用できるような契約形態のこと。通常、契約を開始する時点で当該出版社から購読していた冊子体と電子ジャーナル 双方を含めた雑誌の総額 (「購読実績」という) をもとに購読料が算出される。したがって、同じビッグディール契約でも、大学によって契約額は異なる。

プラットフォーム (Platform)

コンピュータシステムやサービスの基礎的な部分となるシステム環境のこと。OA出版プラットフォーム、電子ジャーナルプラットフォームといった使い方をする。

プランS (Plan S)

2018年9月に、欧州11つ (当時) の研究助成機関が形成するコンソーシアム (cOAlition S) が発表した計画で、加盟する研究助成機関から助成を受けた研究プロジェクトによる学術論文が、「出版と同時に即座OAで提供されることを要請」するもの。2019年5月末に改訂版が出された。

プレプリントサーバ (Pre-print server)

査読付き学術雑誌に掲載される予定になっている論文原稿を、原稿が完成した時点で一足早く公開する際に使用されるサーバ。学術雑誌における査読と出版には数ヶ月から一年以上もの時間がかかることから、よりスピーディーな情報交換を求めて、インターネットの普及とともに自然科学分野の研究者を中心にその利用が広まった。

文献複写 (Inter-Library Loan, ILL)

図書館を通じて、コピー代や郵送費の実費で、論文のコピーや書籍等を取り寄せるサービス。電子ジャーナルについては、PDFなどの電子ファイルをメール添付等で送付することを禁じ、印刷したものを郵送するよう指定しているケースも多い。

ペーパービュー (Pay per view)

電子コンテンツを論文や章などの単位1件ごとに支払って利用する方式。文献複写料金に比べると割高だが、基本的にはその場ですぐに文献を入手できるメリットがある。クレジットカード払いが主流なので、大学によっては校費での支払いに対応していないケースがある。出版社によっては、機関向けサービスを提供しているところもある。